

研究題目

「社会の課題に向き合い、主体的に学ぶことができる児童の育成」
 — 「問い」を生かした探究学習を通して—

研究要項

1 主題設定の理由

21世紀は、情報化やグローバル化等社会的変化が人間の予想を超えて、加速度的に進展している。また、人工知能等の先端技術が高度化した「Society5.0時代」が到来しつつある。このような複雑で予測困難な時代においては、社会の変化に受け身で対応するのではなく、社会の課題に興味・関心をもち、自ら考え行動する力が必要であると考え。

目の前の子どもたちを見ると、与えられたものに対して、一生懸命取り組むことができている。これは、これまでの学校教育において一律で指導にあたってきたことが影響していると考えられる。一方で、社会の課題に対して、その解決策を考えたり、自分事として捉えたりすることに苦手意識をもっている子が多く、誰かの答えやAIに聞いたことをそのまま自分の考えとして述べている子も見られる。このことから与えられたものだけでなく、自ら視野を広げて社会の課題に向き合い、主体的に学ぶことができる児童の育成が必要だと強く感じた。

社会科研究部では、社会科の学習課題や「問い」に対して「どのような」「なぜだろう」「どうしたらいいか」など思考を巡らせる経験を積むことで、思考を広げたり深めたりして自分の考えをもち、社会の課題に向き合えるようになると考えた。また、自らの学びや行動を見つめ直したり、足りない部分を他者と協力して補ったりすることで、主体的に学ぶことができるようになると考えた。つまり、「社会的な見方・考え方を働かせて、社会的事象の原因や背景、影響などを捉え、自分の考えをもつこと」「自己調整力を高めること」が十分であれば、「社会の課題に向き合い、主体的に学ぶことができる児童の育成」につながると捉えている。そこで、社会科の学習を通して、授業者が「問い」の立て方を段階的に提示して自ら思考を深められるようにしたり、社会的な見方・考え方を働かせるための手だてを講じたりすることで、社会的事象やあらゆる課題に対する原因や背景、影響などを捉え、自分の考えをもつことができる児童の育成を図っていく。また、単元を貫く学習課題の解決を図っていく過程で、児童が様々な「問い」を選択したり、生み出したりしながら、学習の進度を調整する探究学習を取り入れたり、振り返りの内容を工夫したりすることで、自らの学びを調整できる児童の育成を図っている。

以上のような資質能力を高めることで、社会の課題に向き合い、主体的に学ぶことができる児童生徒の育成を目指し、研究を行っていくこととした。

2 研究の目的

本研究では、目指す児童像を以下のように設定し、社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等を捉えるための工夫や、自らの学びを調整するための工夫の有効性を明らかにすることをねらいとした。

目指す児童像

社会的な見方・考え方を働かせながら、社会の課題に向き合い、主体的に学ぶことができる子

3 研究の方法

(1) 研究の仮説

次のような仮説を設定して研究を進めることにした。

単元において社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等を捉えるための工夫を取り入れることで、

① 社会的事象やあらゆる課題に対して、その原因や背景、影響などを捉え、自分の考えをもつことができるだろう。

また、自らの学びを調整するための工夫を取り入れることで、

② 学習に対して見通しをもち、他者と協力しながら自己の学びを調整し、粘り強く「問い」や単元を貫く学習課題を探究していくであろう。

(2) 研究の手だて

① 社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等を捉えるための工夫

ア 思考を深めるための段階化された「問い」の提示

単元の中で「問い」の流れを意識させるために「事実を知るための問い(どのような、どのように)」「事実の根本にあるものを意識する問い(なぜ、どうして)」「解決策を考えたり、自分事として捉えたりする問い(どうしたらよいか、どの解決策が望ましいか)」を段階的に提示し、思考の深まり(段階)を理解できるようにする。

イ 社会的な見方・考え方の提示

社会的な見方・考え方にはどのような種類があるのか、どのように活用するとよいのか分かるようするために、事前に見方・考え方を提示し、社会的事象等を捉える際の児童の思考を手助けする。

ウ 思考ツールの活用

児童が社会的な見方・考え方を働かせて、整理しながら社会的事象等を捉えられるよう、思考ツールを適宜取り入れる。

② 自らの学びを調整するための工夫

ア 単元を貫く学習課題の設定

児童が社会的事象やあらゆる問題を自分事として考えたり、見通しをもって学習を進めたりすることができるように単元を貫く学習課題を設定する。

イ 探究学習の時間の設定

児童が様々な「問い」を選択したり、生み出したりしながら、学習の進度を自ら決定し、学びを深めていく時間を設定することで、自らの学びを調整できるようにする。

ウ 振り返りの内容の充実

どのような「問い」について考え、社会的事象やあらゆる課題をどのように捉えたのか、そこからどのような新たな「問い」が考えられるかなど、「問い」の連続性を意識させて学びを振り返ることができるようにする。

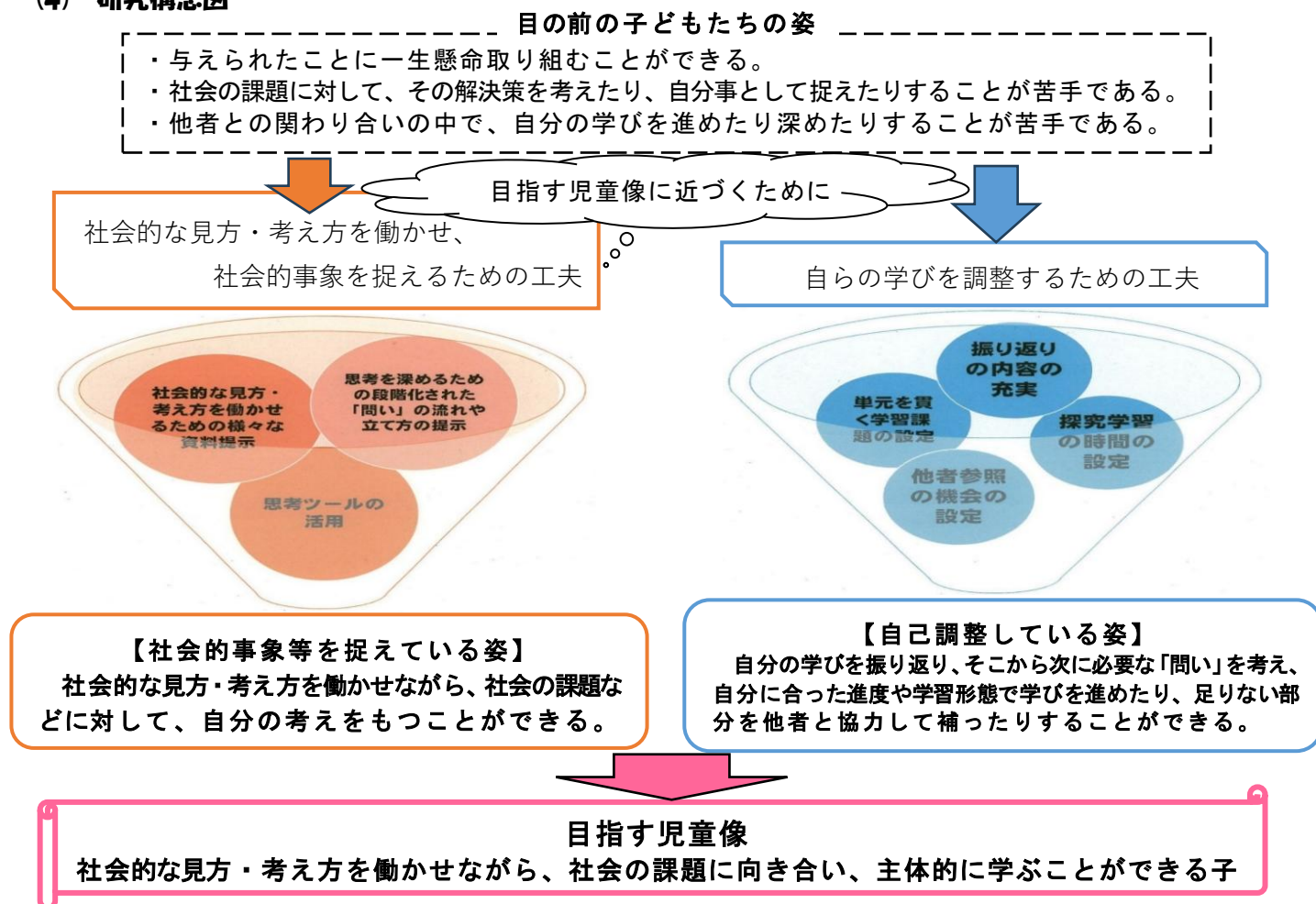
エ 他者参照の機会の設定

タブレットを活用して、いつでも他者の振り返りや「問い」を確認できるようにすることで、他者の学びを参考にして自らの学びを調整できるようにする。

(3) 仮説の検証方法

- ① 社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等を捉えるための工夫について
 - ・ 事前と事後に「社会科の学習に関するアンケート」を実施し、結果を分析する。
 - ・ 抽出児童や学級全体の様子、単元を貫く学習課題への記述内容を「思考・判断・表現」の評価基準を基に分析する。
- ② 自らの学びを調整するための工夫について
 - ・ 事前と事後に「社会科の学習に関するアンケート」を実施し、結果を分析する。
 - ・ 抽出児童や学級全体の様子、振り返りの記述内容を「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準を基に分析する。

(4) 研究構想図



- 質問① 社会科の学習において、「どのような」「なぜ」「どうしたら」という様々な「問い」とつなげて考えています。
- 質問② 社会科の学習において、いろいろな見方や考え方をを用いて、あらゆる課題の原因や背景を考えています。
- 質問③ 単元を貫く学習課題の解決に向けて、自分で「問い」を立てたり、選択したりするなど、学習計画を立てて取り組んでいます。
- 質問④ 学習の振り返りの際に、次の自分の学習方法を考えたり、学習計画を見直したりしています。
- 質問⑤ 友達の活動や振り返りなどを参考にして、自分の学びを確かめたり、広げたりしています。

【資料 1】社会科の学習に関するアンケート結果（事前）

本学級は社会科の学習に関するアンケート結果（事前）によると、どの質問項目も「とても」「まあまあ」と回答する児童が半数以上を占めている【資料 1】。一方で、数名の児童はどの質問項目に対しても「あまり」「全然」と回答している。特に、質問③については 26%（6 名）の児童が「あまり」「全然」と回答しており、単元を貫く学習課題の解決に向けて自分で「問い」を立てたり選択したりするなど、学習計画を立てて取り組むことにも苦手意識をもっているのではないかと考える。また、質問⑤については 34%（8 名）の児童が「あまり」「全然」と回答しており、一人で探究することが難しいと感じたり、同じ「問い」をもつ子に相談して自身の学びを深めたりすることに苦手意識をもっているのではないかと考える。

（3）研究実践計画

① 単元の指導計画表（7 時間完了）

段階	学習活動	学習課題やめあて、「問い」	目指す児童に迫るための活動
課題把握	① 江戸時代のできごとや活躍した人物を理解する。 ② 疑問を Forms に入力し、単元を貫く学習課題を設定する。単元を貫く学習課題に向けての「問い」作りをする。	- 江戸時代は、どのような時代だったのだろうか。 - 単元を貫く学習課題を解決するために、どのような「問い」を設定すればいいのだろうか。	- スライド資料を通して「江戸時代のできごと」や人物について理解する。 - 自分の疑問を Forms に入力する時間を設定する。 - 単元を貫く学習課題を設定した後、解決していくための「問い」作りをする時間を設定する（『手だて②ーア』）。
【単元を貫く学習課題】 ミッション！江戸時代が 265 年も続いたひみつを探れ！			
課題探究	③④⑤ 自分の学習計画に沿って探究学習を進め、できごとや政策（意図・効果）をマトリックスにまとめる。	「問い」の例 ～は、どのような政策を行ったのだろうか。 - なぜ幕府は、～を行ったのか。 - 幕府の政策に対して、～はどう思っていたのだろうか。 - 今の日本の政治体制はどうか。	- 見通しをもたせるために、自分で学習計画を立てるよう指示する。 - 探究学習の時間を設定し、自分で学習形態や学び方などを自己選択していくよう指示する（『手だて②ーイ』）。 - 思考ツール（マトリックス）にまとめるよう指示する（『手だて①ーウ』）。
探究	⑥ 探究学習したことをもとに、出来事や政策をまとめる。政策の意図や効果の共通点や相違点を確認する。	江戸幕府が行った政策には、どのような意図や効果があったのだろうか。	- 探究学習したことをマトリックスでまとめ、共通理解を図る。 - 政策の意図や効果の共通点や相違点について、考える時間を設定する。
課題解決	⑦ 探究学習したことをもとに単元を貫く学習課題についてまとめる。	単元を貫く学習課題についてまとめよう。	- 探究学習で得た知識を基に、単元を貫く学習課題をまとめる時間を設定する。 - 友達の考えを聞いて再構築する、まとめる時間を設定する。

② 評価基準

研究の仮説の下、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点における評価基準を設定した。

思考・判断・表現 （単元を貫く学習課題の解決）	B 単元を貫く学習課題について、自分の考えを表現している。 A 単元を貫く学習課題について、社会的な見方を使って自分の考えを表現している。
主体的に学習に取り組む態度 （振り返りシート）	B 単元を貫く学習課題の解決に向けて、見通しをもって探究し、解決しようとしている。 A 単元を貫く学習課題の解決に向けて、「問い」の連続性を意識しながら、見通しをもって探究し、解決しようとしている。

③ 抽出児童について

「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点から、抽出児童 X、Y、Z を選出した。

（4）実践内容

① 課題把握（第 1・2 時）

第 1 時 江戸時代が長く続いた理由を理解するために、導入時にプレゼンテーションソフトで時代クイズを行った。「縄文時代や弥生時代が長いのは分かっていたけれど、江戸時代って長いのかな」「～幕府の中で一番長く続いたんだ。どうしてかな」など、級友と話しながらか見ていた。その後、穴埋め式ワークシートを使い、江戸時代の大まかな流れを確認した。

第 2 時 第 1 時で得た知識を踏まえて、児童が見いだした疑問の集計結果をもとに、児童と一緒に単元を貫く学習課題を設定した。学習課題に対する予想を立てさせたところ、「前の時代までは戦いがあつたから、戦いをなくすための策がありそう」「絶対的な権力をもった人が現れたのじゃないかな」などの考えが出てきた。それらを生かし、単元を貫く学習課題に迫るための社会的な見方を「業績」「仕組み」「時代背景」の 3 つに絞り、探究していくこととした。その後、社会的な見方を生かし

て「問い」を作るために、江戸時代が265年も続いたひみつを探るために、どんな「問い」を作ればいいのかと尋ねると「～はどのような政策を行ったのか」「なぜ幕府は、～を行ったのか」「幕府の政策に対して、～はどう思っていたのか」「今の日本の政治体制は、どうなのか」などが出てきた。「それらの事実を知るための問い」→「事実の根本にあるものを意識する問い」→「解決策を考えたり、自分事として捉えたりする問い」という思考の流れに合わせて分類した。そうしたことで、児童は単元を貫く学習課題に向かって、「問い」の連続性を意識しながら学習計画を立て、探究学習へと向かった。

② 課題探究（第3～6時）

第3～5時 児童が「問い」を選択したり「問い」を自ら生み出したりしながら、単元を貫く学習課題に迫る探究学習の時間を3時間設定した。探究学習の冒頭の時間では第2時で設定した自身の学習計画表を基に、本時の「問い」を個人で設定した。また、探究学習の時間では、学び方（教科書、資料集、図書の本、インターネット、映像資料など）や学習形態（個人・ペア・グループなど）を児童に自己選択させたことで、児童は単元を貫く学習課題に向かって、自分に合った学び方や学習形態で取り組んでいた。探究学習では、児童自身が学習を調整していくため、学級の仲間との進度の差が大きくなるような名前が書かれた磁石をホワイトボードに貼り、進捗状況を確認できるようにした。ペアやグループで学習している児童は、お互いに調べた情報を共有し、学習状況を確認するなど、分担しながら学習を進める姿が見られた。また、他のグループへ行っても新しい情報を獲得し、情報を共有して、理解を深めるために級友に話しかける姿も見られた。個人で学習している児童は、自分のペースで学習を進められるよさを実感しており、集中して取り組んでいた。必要に応じて、ホワイトボードに貼られた名前入りの磁石を見て、自分と同じことを調べている児童の所へ行っても情報を共有したり、新しい情報を獲得したり、新たな「問い」について一緒に考えたりする姿が見られた。授業者は、個別に必要なアドバイスや、児童同士を繋ぐ声かけを行った。毎単元行っているミニレッスン（松尾タイム）を、授業の冒頭5分で行った。児童の振り返りや学び方の紹介、参考になりそうな情報の提供、目的の再確認などを通して共通理解を図った。そうすることで、前時とのつながりを意識して本時の「問い」を明確に設定し、取り組む姿が見られた。また、他者参照を取り入れ、児童が振り返りシートに入力した振り返りを見てコメントを入力し合う姿や、入力した内容について話し合い、自分の考えの再構築に生かす姿も見られ、振り返りシートを通して、他者参照するよさを体感していた。そして、この単元では「たくさん大切な言葉が出てくるから、先生の授業を受けたい」という複数児童からの願いがあり、必要な児童が受けられるよう、授業の中盤に10分間レッスンを行った。さらに、各時間の終末には振り返りシートに学びの記録を記入させ、本時で取り組んだ「問い」や、次時で探究する「問い」などを記録として残すことで、思考の流れが途切れないようにした。本時で学習した内容を仲間へ伝え合う時間を設定したり、フィードバックする時間や学習計画表を見直す時間を設けたりしたことで、次時の学習への学びの調整を行っていた。

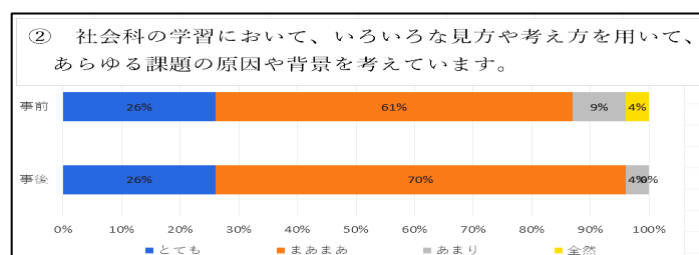
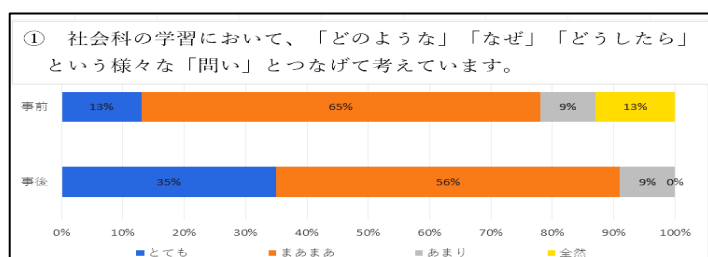
第6時 探究学習の時間に追究してきた「問い」について、児童はマトリックスにまとめていたので、その内容を共有したり、政策の意図の共通点や相違点を確認したりした。将軍による政策は、平和な世の中にするために幕府に反抗できないしくみを作った共通点や、時代の流れに合った考え方で政策を行う相違点があることが分かった。

③ 課題解決（第7時）

第7時 第6時でまとめたことを基に、単元を貫く学習課題に対する自分の考えをまとめる時間を設けた。文章にまとめた後、級友と内容を確認したり、付け足したりする姿が見られた。全体で発表し、単元を貫く学習課題についての学級の考えをまとめた後、この単元に対する自分の考えを書いたり、級友の考えを聞いて再構築したりしていた。

(5) 結果と考察

① 社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等を捉えるための工夫について



【資料2】社会科の学習に関するアンケート結果（事前・事後との比較）

ア 学級全体の変容より

質問①について、「とても」「まあまあ」と回答した児童は13ポイント増加し、「全然」と回答した児童はいなかった。これは、思考を深めるための段階化された「問い」の提示によって、社会的事象を捉える際に「問い」の連続性を意識して取り組んだからだと考える（『手だて①ーア』）。しかし、「まあまあ」の割合は事前と変わっておらず、自分の探究したいことが中心だったため、「問い」の連続性を意識して取り組むことができなかったと考える。質問②についても「とても」「まあまあ」と回答した児童が9ポイント増加し、「あまり」と回答した児童は減少した。これは、3つの社会的な見方を提示したことで、探究学習の時間に取り組む内容が明確になったからだと考える（『手だて①ーイ』）。また、マトリックスを活用したことで、探究した内容を整理・分析し、単元を貫く学習課題に対しての自分の考えをまとめたからだとも考えられる（『手だて①ーウ』）。学習後のまとめを見ると、単元を貫く学習課題に対してのA基準を達成できた児童の割合は43%（10人）、B基準を達成できた児童の割合は57%（13人）だった。

イ 抽出児童の変容より

児童Xは、第3時から第5時の探究学習において、提示された見方から選択し、本時の「問い」を作り出して探究する姿が見られた（『手だて①ーイ』）。また、今日は何について学んでいくのかと尋ねると「昨日は徳川家のしたことを調べて身分制という仕組みが分かったから、身分制と265年間続いた関係について調べていく」と答えた。振り返りシートの記述内容を見ると、「問い」の連続性を意識しながら取り組んでいたことが確認できる【資料3】。探究学習が進むにつれて、複数の見方を生かして探究し、その中で新たな「問い」が生まれ、その「問い」についても調べていた。

第3時	第4時	第5時
徳川家はどんなことをしたのか。	江戸時代が265年間続いたことと身分制は、何か関係しているのか。	なぜ江戸時代は、265年も続いたのか。
安定した社会にするために、いろいろなことをしていることが分かった。例えば、 <u>身分制という仕組みを作った</u> 。それは、地位や役割が決められた階級や階層によって決められる制度で、その制度を作った理由は、 <u>将軍が一般の町人を管理しやすくするため</u> と分かった。次は、 <u>身分制が単元を貫く学習課題と関係しているかを調べたい</u> 。	色々関係していることが分かった。例えば、町人が自分の身分に不満をもって一揆を起こすと厄介だから、えたひにんという身分を作ることによって町人がえたひにんよりかはましと考えるようになり、一揆を防げたと分かった。でも、町人がよくても、えたひにんはよくないから、本当にいい幕府だったのかなと思った。 <u>身分制があることで社会が安定したり、仕事に専念できたりしたけれど、一人一人が幸せになれるわけではないから、やっぱり身分制はない方がよかったのかなと思った。一人一人は幸せになれるけれど、社会が安定したから265年続いたのかと思った。次は、単元を貫く学習課題について考えていきたい。</u>	江戸幕府が長く続いた理由は、 <u>卓越したリーダーシップ、慎重な政策、社会秩序の維持、経済的安定という理由があると分かった。徳川は戦によって一気に天下を取るのではなく、長期的な安定を目指した。敵を無理に増やさず、信頼を築くことを優先し、慎重に政権を運営したと分かった。だけど、安定した社会のことを優先しすぎて、誰もが幸せになることはできていないと思った。</u> 私は、誰もが幸せになるため徳川は、信頼を築くことはもちろん、上下関係を作るのではなく、町人や武士を同じ地位にすればまだ平和になるのかと思った。これで地位をめぐる争いが起こるのなら、みんなそれぞれの役割の大切さを伝えていく行動をすればいいと思った。でも反対に、その歴史があったからこそ、今の幸せな日本があるのかとも思った。

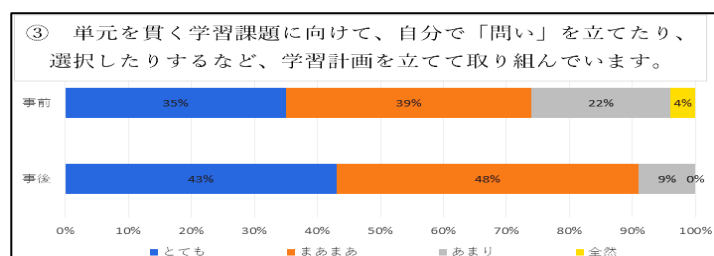
【資料3】抽出児童Xの振り返りシートの記述内容

成果物を見ると、社会的な見方を生かし、単元を貫く学習課題に対しての自分の考えを書いている【資料4】。社会的な見方や考え方を基に、探究してきたことを生かし、自分の考えをまとめていたため、A基準を達成できたといえる。

江戸幕府が265年も続いたひみつは、家康の卓越したリーダーシップで安定した政権を築くことを重視した。戦によって一気に天下を取るのではなく、長期的な安定を目指した。家康は敵を無理に増やさず、信頼を築くことを優先し、慎重に政権を運営した。政治制度と政策の面では全国領地に大名を割り当て、各大名が支配する「藩」を設けることで地方の安定を図った。また、参勤交代制度を導入し、大名の権力を制御しつつ、幕府の権威を強化した。これにより反乱や混乱を防ぎ、社会秩序を維持した。経済的安定の面では貿易を独占し、経済的な利益を確保した。これにより幕府の財政基盤が強化され、安定した政治運営が可能となった。また、農業生産性を高める政策を推進し、民衆の生活を安定させることで支持を得た。江戸幕府は外国との接触を制限する鎖国政策を採用し、外国からの影響を抑え、国内の安定を図った。これらの要因が相まって、江戸幕府は約265年にわたって日本を統治し、安定した社会を築くことができたのである。

【資料4】抽出児童Xの学習後のまとめ

② 自らの学びを調整するための工夫について



【資料5】社会科の学習に関するアンケート結果 (事前・事後との比較)

ア 学級全体の変容より

質問③について「とても」「まあまあ」と回答した児童が17ポイント増加し、「全然」と回答した児童はいなくなった。これは探究学習の時間を設定したことで、本時の「問い」を計画する、探究する、振り返る、計画を見直すといったサイクルを意識して取り組むことができたからだと考える(『手だて②ーイ』)。質問④について「とても」と回答した児童は13ポイント増加した。これは、振り返りの時間に振り返りシートを活用したことで新たな「問い」を生み出し、その解決のために学習方法や学習計画表を見直す時間などを設定したことで、自らの学びを調整しながら学習を進めたからだと考えられる(『手だて②ーウ』)。質問⑤について「とても」と回答した児童は31ポイント増加した。これは、探究学習時の毎授業の冒頭5分で行ったミニレッスンで、児童の振り返りや学び方の紹介などを行い、級友のよさを知る時間を設定したことで、振り返りシートに入力した振り返りを見てコメントし合ったり、話し合ったりするなど、他者参照するよさを体感することができたからだと考える(『手だて②ーエ』)。振り返りシートを見ると、A基準を達成できた児童の割合は70%(16人)、B基準を達成できた児童の割合は30%(7人)だった。

イ 抽出児童の変容より

探究学習の時間を設定したことで、児童Yは自ら「問い」を生み出したり、探究学習する中で新たな「問い」を生み出したりしながら学習する姿も見られた(『手だて②ーイ』)。また、振り返りシートを活用したことで、「問い」の連続性を意識し、その「問い」を生み出した理由についても記述する姿が見られた(『手だて②ーウ』【資料6】)。

第3時	第4時	第5時
江戸幕府がなぜ開いたのか、どうやって開いたのか。	身分制の仕組みや鎖国をした理由は、何だろうか。	江戸時代は本当に平和だったのか。
江戸幕府が長く続いた理由は、争いが少なかったからかなと思った。 「身分」を作ったから、武士が少数に減ったから、命の危機が減り、安全な世の中になったから長く続いたのかなと思った。でも、えたびにんはもちろん、百姓も身分差別を受けていたから、位が高い人に不満が言えなかった。不満を言ったり裏切りなんてしたりしたら、位の高い人からひどい扱いを受けてしまう。 不満を無理矢理ねじ伏せて平和を装っていたから長く続いたのかなと思ったから、次は身分制について詳しく調べたい。	鎖国した理由は、キリスト教が団結して江戸幕府に反発すると予想したからだと分かった。だから、江戸時代が平和だったのか？という疑いが強くなった。 鎖国したせいで科学技術が他国より約300年も遅れたし、他国からの技術で発展してきた日本には大分痛手だったと思う。また、農民は引っ越しも旅行も禁止だったから、ほぼ農業のために生まれてきた半奴隷の状態だった。さらに、女性差別や身分制が生まれたのは江戸時代で、差別が当たり前だった江戸幕府なら、今より差別がひどかったと思う。だから、江戸幕府は、本当は平和じゃないと考えたから、次はそれを考えたい。	百姓など身分の低い立場からすると、平和ではなかったと思う。なぜなら、身分制があったことで、ひどい仕打ちをされたから。将軍など身分の高い立場からすると、反乱がないから平和だったと思う。つまり、立場によって平和かどうかは異なると調べてみて思った。このことについて友達と話しても、私と同じ考えだった。そこから、百姓や誰もが平和だと思う江戸時代にするには、身分制を作るのではなく、今の政治のように、みんなの声を聞いて進めていった方がよかったと思うし、もっと長く続いたかもしれないと思った。

【資料6】抽出児童Yの振り返りシートの記述内容

第7時では、探究してきた「問い」から学んだことを生かし、ノートにまとめていた。振り返りシートの記述からも、単元を貫く学習課題の解決に向けて、自ら「問い」を生み出し、「問い」の連続性を意識して主体的に学習課題を解決しようとしたり、これまでの学習と関連付けて考えようとしたりしているといえるため、A基準を達成できたといえる（『手だて②ーア』）。また、成果物を見ると、社会的な見方を生かし、単元を貫く学習課題に対しての自分の考えを書いている【資料7】。社会的な見方や考え方をもとに探究してきたことを生かし、自分の考えをまとめられていたため、A基準を達成できたといえる。

長く続いた理由は「身分制」を作ったのが一番だと思う。身分制を作り、百姓が大半を占めたおかげで武士が減り、争いが減ったから。また、芸能者や絵師など「人を楽しめる仕事」や、医者など「人々の安全を支えるもの」の身分が生まれたおかげで、人口の約15%の人は安心して平和で生きやすい世の中になったから。実は、百姓以下の身分の人は、不満をもっていたけれど、言える時代ではなかったから、言ったらどんなことをされるかは分かっていたから、江戸時代は長く続いたのであって必然だと思う。徳川家が身分制を作ったから差別が生まれ、その影響でひどい扱いを受ける人がいたし、徳川家康が言ったとされている「百姓は生かさず殺さず」の言葉も大きく関係あると思う。だから私は、徳川が「身分制」を作ったから長く続いたのだと考える。

【資料7】抽出児童Yの学習後のまとめ

児童Zは「社会科は得意だし、好きだ」とアンケートで答えている。しかし、自分で「問い」を立てたり、授業終末の振り返りを基に、次の時間の学習計画を立てたりすることに苦手意識をもつ児童であった。そこで、授業者が提示した複数の「問い」から自分で選んだことで、自分のペースで興味をもって学習することができた（『手だて①ーア』）。また、学習形態が自己選択できたことで、一人で集中して調べたり、分からないことがあると級友に相談したりしながら前向きに取り組んでいた（『手だて②ーイ』）。「問い」を自己選択させたことで、主体的に取り組むようになったことは、大きな成果だといえる。振り返りシートの記述を見ても、単元を貫く学習課題の解決に向けて、自ら「問い」を生み出し、解決しようとしているといえる【資料8】。しかし、毎時間「問い」の連続性を意識して振り返りシートに入力していなかったり、これまでの学習と関連付けてまとめたりすることができていなかった。よって、B基準を達成したといえる。

第3時	第4時	第5時
徳川家は何をしたのか。	参勤交代とは何か。	なぜ武家同士は結婚できないのか。
徳川家がしたことは、参勤交代や武家諸法度、身分制、鎖国、キリスト教の廃止などである。参勤交代が気になったから、詳しく調べたい。	参勤交代は1年に1回江戸に行き、人質である妻と子供に会いに行くこと。1番近くに信頼できる親藩を、遠くに信頼できない外様大名を置くことが分かった。	武家同士の連帯を深め、幕府の脅威となり、反対勢力になるのを恐れたからだと分かった。疑問が無くなってスッキリした！！

【資料8】抽出児童Zの学習後のまとめ

(6) 成果と課題

① 成果

ア 社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象等を捉えるための工夫

○ 「事実を知るための問い」→「事実の根本にあるものを意識する問い」→「解決策を考えたり、自分事として捉えたりする問い」という思考の流れを段階的に提示したことで、「問い」の連続性を意識し、社会的事象等を捉えることができた。

イ 自らの学びを調整するための工夫

○ 授業の冒頭に他者参照する時間を確保したことで、自分の考えを読み返して本時の「問い」を確認したり、級友の振り返りから新たな視点を見いだして探究学習に生かしたりする姿が見られた。

② 課題

● 児童の「調べてみたい」という興味や生活に直結する「問い」を設定したことで、自分事として捉え、進んで学習に取り組む児童が増えた。ただ、数名の児童は自分事として捉えられなかったため、「問い」作りでの新たな手だてが必要である。